10／30版　県大会参加作品　和歌山県立向陽高校　演劇部

エリクソンと長官

向陽高校演劇部　作

登場人物

愛田千尋（あいだちひろ）　高3
脇城百合（わきじょうゆり）　高3　黒子3
葦田部広志（よしたべひろし）　高3　黒子2
愛田万里（あいだまり）　母　黒子1
馬渡颯太（まわたりそうた）　高3　黒子4

1場

緞帳が上がり、教卓上の缶にだけ照明
小さい子供の声で手紙が読まれる。

千尋　「てんごくのかみさまへ　てんごくのおとうさんはげんきですか　おかあさんはまいにちないています　ちひろがへんがおしてわらわせるとおかあさんはわらいながらないています　おねがいです　おとうさんをかえしてください　くつをちゃんとそろえるし　はをまいにちみがきます　たべるまえにちゃんとてをあらいます　ひとりでおきられるようになります　ともだちとけんかしません　おかあさんがしんぱいしないようにびょうきにもなりません　だから、おとうさんをかえしてください　ちひろより」

2場

セミの鳴き声
掃除当番４人、ほうきを持って休憩中

千尋　ち、長官！！
百合　…なんだね。
千尋　…どうしても行くとおっしゃるんですか。
百合　…私を止めようって言うのか？
千尋　止めると言うわけではないのですが、もう限界です。
百合　…。
千尋　このままだと…長官が…その…えっと…。
百合　…なんだ？
千尋　…えっと…。
百合　ふっ。大丈夫だ、エリクソン君。私は自分を超えて見せる。必ず。常識なんぞにとらわれない。それが私のモットーだ。
千尋　…長官。
百合　どうした、エリクソン君。

千尋　たいへん申し上げにくいのですが……長官のズボンのチャックが全開です。
百合　…えっ？　だからそれがどうしたというのだ？
千尋　…っていうシーン！！もう感動だよ——！！
百合　人生の山場って感じだったよね。
広志　やっべ！自に汗が！！
颯太　…最後の最後でなんかあったけど。
百合　そこが感動なんだよ——！！ね！千尋！
千尋　うん！
広志　「夢を叶えるためなら悪にだってなってやる。」
百合　あー！それすっごくかっこいいよね——！
千尋　もうキュンキュンくる！ぐはっ。
広志　「この世界は美しい」
百合　「この世界は美しい」
広志・千尋・百合　「この世界は美しい」
颯太　この世界は暑苦しいだろ！あーあもう7月16日かよ。テストが終わった日だけ遊ぼうと思ったのがいけなかったんだよなぁ。
広志　なんだ、颯太焦っているのか？颯太らしくないじゃないか。ま、わからなくもないけど。受験勉強したい気持ちはあるけど定期考査の勉強はやる気がおきないんだろう。わかるよ。
百合　テスト勉強と受験勉強一緒じゃない。
広志　それが違うんだよ、なあ颯太。
颯太　おれは受験勉強しないといけないんだよ。定期考査の勉強やってる場合じゃ無かったんだよ！
百合　　千尋ふーん…。
颯太　ふーんって他人事だと思ってるだろ。英語やる気起きないんだよ。やる気出すのに一日かかってしまうんだよな。やる気が起きたその瞬間に眠くなっちゃうんだ。
千尋　不思議な現象ね。でも私もどっちかって言うと、英語は苦手だな。
颯太　大体なんで日本人が英語なんかやんなきゃならないんだ！
百合　何かといいことあるわよ。そうね、例えば映画の字幕読まなくてもいいわよ。
颯太　俺は・・・。
千尋　それいい。元の台詞の意味が正確にわかれば吹き替えがうまくできるのかなあ。

百合　なんとも言えないんじゃない？声優は英会話できなきゃならないって聞いたこと無いし。
広志　アニメの声優になりたいんじゃなかったのか？
千尋　映画の吹き替えもできるようになりたいの。
百合　ていうか、声優ってナレーションも、
千尋　「何と言うことでしょう！」
百合　駅のアナウンスも
千尋　まもなく2番線に天王寺行き快速が到着します。
百合　ゲームの声も
千尋　イッツミーマリオ
百合　炊飯器や
千尋　お風呂が沸きました。
百合　何もかもできなきゃならないのよ。
広志　へえ、声の百貨店なんだね。
百合　そう、でも声優って仕事がたくさんありそうでないんだよね。映画にしても何でもかんでも吹き替えになってないでしょ。
広志　そういえばそうだな。それに吹き替えの映画って元の映画と印象が違うんだよね。
颯太　とにかくおれは字幕読むのが好きなんだ。
広志　負け惜しみはそれくらいにしておけ。それにしても暑いよなあ。
千尋　どっかの球技大会で熱中症でばたばた倒れて病院に運ばれたらしいよ。
百合　あ、今日の新聞に載ってた。
広志　去年よりも暑くなるのかなあ。
千尋　そうかもね。
広志　あーそうだー帰りにアイス買いに行こうぜ！
颯太　あっ、いいな、それ。
広志　お前らも行く？
千尋　行く行くー！あ、そうだ。駅近くのクレープ屋のアイスにしない？夏限定のアイス、売ってたよ。ね、百合も行こう！
百合　うん、行こっかな。でも私アイスよりクレープ食べたいかも。
千尋　美味しいもんね、あそこのクレープ。百合のお気に入りはフローズンヨーグルトクレープだっけ。あの冷たいヨーグルトとフルーツソースがクレープ生地から溢れそうなくらいにたくさ

ん入ってるやつ。
百合　「うむ、あの果物の甘みとヨーグルトの酸味の比率が最高なのだ。ところであのデコポンのような果物は何という果物なのだ？」
広志　「長官、今勤務時間です。早く掃除を済ませましょう。」
颯太　そんな台詞あったか？
広志　「長官、早く掃除を済ませましょう！…」
颯太　広志うるさい。
百合　「エリクソンと長官」面白いよね。私結構好きだな。
千尋　あたしも、長官とエリクソンの掛け合いすごくおもしろいと思う。
百合　挿入歌もいいよね。

千尋歌い出す。百合も一緒に歌い出す。

百合　それに名台詞満載だよね。ウェリントンと言えば、「俺達は常識という名のルールに縛られている。」
千尋　でもそれ、ビーフストロガノフの台詞じゃなかったっけ。
百合　そうだっけ？
千尋　ウェリントンは「このせはすべからくカオスだ。」……こっちが正しくない？
颯太　おお、
広志　すげぇ、
百合　似てる。ポーズまで完璧。
千尋　え…そう…かな？
広志　エリクソンもしてくれよ。
千尋　「長官、早く仕事始めてください。仕事が増える一方なんですから。長官が今までさぼっていたせいでこんなに書類が溜まっているんです。さあ、ルービックキューブなんかやってないで仕事仕事！」
広志　うお、すげえ！
颯太　さすが千尋！
千尋　「褒めたって何も出ませんからね。」
百合　千尋は格が違うわー。

広志　よっ、アニメオタク！
千尋　あたしはアニメオタクじゃない。アニメ愛好家と言ってちょうだい。
広志　毎日掛け合いしているのに？
千尋　私は、アニメが大好きだけどアニメの世界の中だけに浸っているわけではありません。
百合　そうよ。アニメ愛好家に対する偏見よ。
広志　すまん、マジですまん。謝るからその目やめて怖い！
千尋　いや、別に謝らなくてもいいよ。アニメ愛好家に対する認識を改めてくれるならね。
広志　このとおり、スマン。ごめん。
百合　ま、許してやらんでもないか。
広志　よっしゃ。……百合の本性知ったら、男なんて誰一人近寄らないだろうな。
百合　……私の本性知ったらそんな口聞けなくなるわよ。
広志　ひえっー、平に平にお許しください。
颯太　そういえば、もうすぐ三者面談だろ？
千尋　あっ、そうだ…。
広志　進路、聞かれるんだろうなあ。
百合　当たり前じゃない。あたしたちもう高3よ。
広志　そりゃそうだけど、俺さ、去年の三者面談の時、親子げんかになっちゃったんだよな。
颯太　ああ、そんなこと言ってたな。担任が仲裁に入ったんだろ。
百合　時々いるらしいわね。家でよく話し合ってくださいって言われるんでしょ。
広志　あぁ、言われたな、それ。でもさ、家で俺の進路の話になるといつもけんかだよ。石屋継ぐって言ったらさ、「これから石屋で食べていけると思ってるの？中国から安い墓石入ってきてるんだから。うちの半額なのよ。」っておふくろが反対するんだよ。普通、家業を継ぐって言ったら泣いて喜ばれるんじゃないのか？親父は親父で何も言わないしさ。
百合　辛いね。
千尋　私はこの前の中間テストでよくない点数とっちゃったからねー。怒られちゃうよ。
百合　広志、やばいんじゃない？
広志　もう、それ以上は言うなっ。
颯太　そういう百合は大丈夫なのか？
百合　あたしは今回のテストの点数、まあまあ良かったからねー。
千尋　いいなぁ、百合は勉強ができてさー。

百合　それだったら、颯太の方がすごいじゃんか。数学のテスト、９０点でしょ？
颯太　いやー、たまたまその日の朝山張ったら当たったんだよ。
広志　颯太は理数系の才能あるもんなあ。
颯太　だから別にそんなんじゃねえって。
広志　お、おらに才能を分けてくれー！！
颯太　嫌だ。
百合　結局才能よね。才能が無い人間は平凡な人生を歩むことになってるのよ。
千尋　才能かぁ！
颯太　才能なんて本人には分からないもんだよ。ただ俺は天才だって自分に言い聞かせているけどね。
広志　俺は努力の天才になる！
百合　おっ！めずらしく広志が謙虚だ。
颯太　俺たちガキの頃から努力によって天才に近づけるって教えられてきたけど、それは教育的配慮というやつだよ。
百合　そうよね。よく聞かされたよね。エジソンの「天才は９９％の努力と１％のひらめきである」って。努力すれば天才に近づけるってね。１％のひらめきって才能のことでしょ。才能がなければ天才にはなれないのよ。
千尋　そうだよね。やっぱり才能がないとできないことってあるもんね。
広志　そりゃあ誰にだって向き不向きがあるのはわかるけどさ。
百合　確かに、努力をしたうえで才能が無いことを知ってしまうのは悲劇ね。
颯太　よし、掃除終わり。
百合　あ、私日直だった。ごみ出ししなきゃ。
千尋　もういっぱいなの？
百合　うん。やっぱり金曜日に日直はついてないわー。あ、颯太、ほうきお願い。
颯太　おう。あ、お前らのも。
広志　サンキュー。
千尋　ありがと。

颯太、掃除道具をもって上前からはける。
百合、ごみ袋を持って外へ。

百合　広志ー、ごみ袋新しいの入れといてぇー。
広志　はあー？めんどくせえー。
百合　ごめん千尋、カバン頼んでいい？ごみ重くって。
千尋　うん、わかったー。

広志、ごみ袋を適当に入れる。
千尋、百合のカバンを肩にかける。
そこに颯太が帰ってくる。

広志　アイス買いに行くぞー。
颯太　おい、待てよぉ。

千尋、立ち止っている

暗転

３場

千尋、教卓前で、後ろ向きに椅子に座っている。声優の養成所のパンフレットを持っている。突然立ち上がる。黒子１が登場。

千尋　問題は授業料と生活費か。２年間必死にバイトして４００万貯めて、それから東京に行く

颯太　千尋？
千尋　…。
颯太　才能があると思わなきゃ冒険出来ないよ。
千尋　…うん。
颯太　おいて行くぞ。
千尋　あっ、待ってよー

ことにしよう。

飛び跳ねながら

千尋　「♪どんなに困難でくじけそうでも信じることさ。必ず最後に千尋は勝つ♪」そうよ、才能を信じて、努力あるのみ！

黒子1大きな巻物を拡げると、エリクソンと長官のポスター
黒子1はウェリントン長官役、台詞は千尋が言う。

千尋　この世界は美しい。ですよね？長官。
うむ。そして、まわりまわって「来月コスプレパーティをしよう」という話になる。
長官ならさしづめオスプレイのコスプレとかいいんじゃないですか？
ああ。だが結局ビーフストロガノフ氏とのコスプレパーティは実現しないんだ。つまり、この世はすべからくカオスなんだよ。
予測不可能ってことですね。3年ぶりにあったバイト仲間みたいな間柄とでも言えるんでしょうか。
そうかもしれん。

黒子1が去り、黒子2がルービックキューブを持って登場　ウェリントン長官役、台詞は千尋が言う

ところで長官、ルービックキューブの6面完成できましたか？
ええい、言うな！私はこれでガロア理論の奥義を掴もうとしているのだ！6面完成が目的ではないのだ！
さすが長官、ただの物好きではなかったのですね。
当たり前だ。わたしはこれに命をかけているのだ。

黒子2がルービックキューブの6面を完成し、掲げた後去り、黒子3が登場

エリクソン君、近頃声優を目指している若者が増えているそうだね。
ええ、そのようです。
声優にも一発屋というのはいるのかね。
いいえ、声優界にはそのような者はいませんね。いわゆる本物の実力がものをいう世界ですからね。
才能と努力に裏打ちされた実力というわけか。
東京で5年から8年勉強しなければなりませんからね。それだけ頑張っても声優になれるのは0.01%以下みたいですよ。大抵途中で挫折していくようですね。
どういう理由で挫折していくのかね。
才能が無いことを思い知らされたり、経済的に続かなくなってしまうんです。穿った言い方をすれば、才能がないことを思い知らされるために何百万円もかけるようなものなんです。
なるほどな、厳しい世界だな。そういう勝ち残った人たちによって日本のアニメが世界に誇れるレベルの高さを維持しているというわけか。

黒子3が去り、黒子4が登場

エリクソン君、君は3年後どうしていると思う？
えっ！私ですか？私とコスプレパーティーするんですか？
いや、コスプレパーティーはもう飽きたんだ。私は今年引退する。引退後は茶飲み友達が欲しいと思ってな。
私はそうですね、自分の夢を実現するために格闘していると思います。ですからご希望に添えないと思います。
そうか、夢に向かって格闘しているのか・・・実に羨ましい。
テレビや映画で私の声をお聞かせできるようになっていれば嬉しいんですが。
長官は引退して3年後はどうしているんでしょうか？
私か、私は引退後のことについてはツイッターでしか話していないがな。新しい遊びを思いついたんだ。
どんな遊びですか？
一人しりとりだ！

悲しいですよ、長官！一人しりとりに飽きたら電話してください。二人でしりとりしましょうよ。
あっ、そうだ！お会いできた際は二人であやとりしましょう。きっと楽しいですよ。

暗転

4場

百合　エリクソン君。いちごミルクを持ってきたまえ。
千尋　ありません。
百合　なぜだ。一分以内に理由を述べろ。
千尋　長官がルービックキューブを300個買ったので経費が無くなったからです。
百合　これは福引で当てたんだ。
千尋　そんなことありません。この明細書にきちんと書かれています。
百合　な、なぜこれを…！
千尋　私の調査能力を甘く見ないでください。
百合　くっ。レジのおばちゃんめー！
広志　またやってるな。おまえらすごいな。
千尋　すごいって言われると照れちゃうけどね。
広志　声優になるんだろ？
千尋　うんそのつもり。
広志　百合もなんだろ？
百合　あ、ごめん。私、声優やめた。OLになる。
千尋　え？
百合　…私さ、実はこの前オーディションに行ったんだよね。オーディションといっても養成所に入るためのオーディションだよ。そこでアテレコをやったんだけど、周りの子たちがすっごく上手くてさ、こりゃあ私にゃ無理だなって。
千尋　…。
広志　諦めたのかよぉ。
颯太　おい、広志。
百合　ああ、いいのいいの。別に、もう吹っ切れてるというか限界を知っちゃったんだよね。

広志　しっかし、OLとはまた…。
颯太　OLって、どんな企業のOLなんだ？
百合　えっと、化粧品会社。
千尋　…OLかぁ。
広志　まあ、ずいぶん現実的になったな。
百合　OLのどこが悪いのよ。私ね、自分に才能が無いから諦めたんだけど、苦労して声優になってもやっぱり限界があるのよね。だってさ、よくあるじゃない。主役の声、声優じゃなくて素人同然の人がやってたり…あ、ウェリントンとエリクソンも、映画の監督とコピーライターがやってるみたい。それに歌手や俳優さんや作家に持ってかれたとか。
広志　俺は声優じゃなけりゃ出せない声あるとおもうけどな。たとえばラピュタの「パズー」とか「シータ」とか。あの声声優さんの声だろ。
百合　演技じゃない声を要求されたら声優の勉強する意味無いじゃない。
千尋　そんなことないよ。物語の骨格というか構造をきちっとして、感情の流れを自然なものにしているのは声優さんたちだよ。それに日本のアニメ文化の一翼を担っているんだから。
百合　それはそうかもしれないけど声優さんって主役を目指して頑張ってるんでしょ。それが素人に横取りされたんじゃたまったもんじゃないわ。
颯太　千尋はどう思ってる？
千尋　あ…うん。私は別に素人さんが主役をすることには特に何も思わないな。私はただ演技をしたいっていうか、表現したいだけなの。
颯太　役者は考えてないのか？
千尋　役者もいいなと思ってる。でも声優は自分を超越できるじゃない。声で。役者は自分の身体を超越できないと思うのよね。
颯太　だから声優なのか。
千尋　そういうこと。だけど声だけで勝負するってことは、実力だけが頼りの世界なの。役者だったら顔やスタイルも大きな要素になると思うんだけど。声優は才能が無ければダメなの。
百合　千尋ならなれると思う。
広志　応援するよ。
颯太　応援ってお前に何ができるんだよ。
広志　練習につきあうとかだよ。

千尋　みんな…。声優ってそんなに簡単になれる仕事じゃないのよ。ほとんどの人はバイトしながら仕事が来るのを待っているらしいの。それに養成所のお金だってバカにならないんだから。
颯太　声優になるのって大変なんだなあ!声優になるって言ってる奴結構いるから簡単になれるのかと思っていたけど、アニメお宅程度のアニメファンでは到底無理な世界なんだな。
広志　努力だけじゃ無理な世界なんだな!
颯太　そうだよ。才能がすべてなんだよ。
百合　広志は石屋を継ぐって言ってたけどどうなったのよ?反対されてるって言ってたじゃない。
広志　それがだな。回り回って…、俺ハーバードにいくことになったんだ。
颯太　えっ?ハーバードって、ハーバード大学じゃないよな?
広志　まさかのハーバード大学だよ。
千尋　何しに行くの?
百合　観光?
千尋　あ、オープンキャンパス!
広志　うわぁ!ひでぇ!遊びに行く筈ないじゃないか!お前ら友達じゃなかったのかよぉ!ハーバードを卒業しなけりゃならなくなったんだよ!
颯太　あー、そうなんだ。まあ、うん。がんばれ。
百合　石屋になるのになぜハーバード?
千尋　ハーバードに墓石科があるんじゃない。
広志　もう!お前ら何なんなんだよ!!
颯太　まあまあ、落ちつけって。
百合　訳わかんない。この前石屋継ぐって…。
広志　そうなんだよ。いや、実はさ、昨日親父がやっと真剣に進路の話聞いてくれてさ。で許してくれると思ったんだけど、
千尋　「ハーバード大学に合格したら許してやろう。」
百合　あ、なるほど。
広志　いや、そんなんじゃねえって。「…分かった。でもまあ一つだけ条件がある。」
みんな　…。
広志　「ハーバード大学を卒業しろ。」

百合　え、一緒じゃん。
颯太　ハーバードを卒業しろと真剣に言ったのか?
千尋　そのどこが真剣な話なのよ?
広志　それはともかくとして、「まあ、お前は卒業どころか合格さえ無理だろうな。まあ、期待は全くしていないが、まあ、程々に頑張れ。あっはっはっはっは…。」
百合　まあそんなお父さんなの。まあ。
広志　ああそうだよ。やっと本性を現した。だから、俺はハーバード大学に行かなきゃならないんだよ。
颯太　まあ早まるなよ。単に石屋を継ぐのを止めておけってことじゃないのか。
千尋　まあ石屋がダメと言うんじゃなくて、
広志　まあまあうるせえよ。
千尋　お父さんはもっと広い世界を知ってほしいって願っているのよ。まあたぶん。あっごめん。
広志　広い世界?
千尋　そうだと思う。
百合　そりゃそうと、颯太は何になりたいの?
颯太　俺は…起業するんだ。ベンチャー企業をおこしたいんだ。
広志　あー、そんなこと言ってたなぁ。
百合　ベンチャー?
颯太　そう。
千尋　どんなことするの?
颯太　そうだな…ゲームのソフトウェアの開発とかかな。
百合　あー、分かる。ゲームのプログラミングとかでしょ?
広志　どんなやつ作るんだ?
颯太　今はまだ、制作段階だけど、もうネタはこんなにある。

　　颯太、鞄からぎっしりつまったファイルを取り出す

百合　なにそれ!
広志　辞書より重い!
颯太　中一の時から考えて、ためてたネタ。

千尋　どんなの？
颯太　えっと、今は、もう値段では中国や韓国に勝てない。それに結構いいものを作ってる。だから、真似されないような新しいものを作る必要があるんだ。
広志　なるほど。
颯太　ゲーム以外に俺が考えているのは、ユーザーインターフェースの向上、つまり、たとえば、CDを入れるだけで自動的にインストールしてくれるソフトを作りたいんだよ。
百合　ユーザーインター・・・って何なの？
颯太　ユーザーインターフェースっていうのは簡単に言うとパソコンと人をつなぐ画面のことだよ。ずいぶん使いやすくなってきているけれど、パソコンとかの精密機器はものすごく複雑だろ？　みんなだって、パソコンでこんなことがしたいな～と思ってもやり方が分からなかったことあるだろ？
広志　あ、CDに入った曲を携帯に入れようとしたけどよくわかんなかった。
颯太　そうそう。そういうこと。だから、いろんなソフトウェアの操作方法の情報を入れて、どんどん更新していくシステムを作ったら、誰でも簡単にどこをどうすればいいか分かるんじゃないかな。
三人　おお！
百合　やっぱ、考えることが違うね、颯太は。
颯太　まだまだいろいろ考えてるよ。SF映画で見たことあるんだけど、宇宙人てさ、何にも操作してないのに機械が自動的に動くだろ。あれは機械に意思を伝えているんだよな。いわゆるテレパシーっていうやつだ。地球人も、こんなことしたいって思うだけで、思うだけでだよ、コンピュータがやってくれる時代がくると思うんだ。俺そんなシステム考えてみたいんだよ。
広志　颯太っぽいなぁ。すっげえ、あれみたい。スティーブジョブズ。
百合　あ。確かに。いわゆるイノベーションね。
広志　ジョブズはジーンズとポロシャツだったけど、颯太ならさ、全身タイツの上にネクタイと靴下とか。どう？
颯太　やらない。
千尋　でも、颯太ならできそうだね。
颯太　やらない。
千尋　いや、そっちじゃなくて。壮大な夢のほう。
百合　ねえ広志。あんたさっき石屋継ぐって言ってたけど、ぶっちゃけ石削るだけじゃないの？
広志　ちっちっち。石屋ってこれからもっと伸びる仕事だから、これから言うことをよーく聞くように。墓石とは芸術なんだぜ。
颯太　それただの思い込みだろ。
百合　でも堅いわよ。
広志　当たり前だよ。しかし、石屋は四角い墓石だけじゃないんだ。墓石でも、もっとレリーフみたいな飾りをいろいろつけて、「俺！！」って感じでデコりたいだろ。
千尋　誰が？
広志　埋葬されている人が。
百合　デコるって。
広志　いろいろカスタマイズするってことだよ。あと、庭園の石像とか、灯籠とかにもオリエンタルな飾りとかつけたら面白いだろ。
百合　灯籠を飾るのって日本庭園だけど。
広志　だから、庭に合わせて、特注で灯籠を作るんだよ。西洋式の噴水とのコラボとかよくね？
颯太　いい…のかな？
広志　高野山の奥の院ってところに、すっげえ大量に墓石があるんだけど、それをずっと見てると何百年も前の人のことがわかるような気がする。なんかさ、落ち着くっていうか、人とは違う世界にいるけど、でもこっちを見てるというか…。石のカってすっげえよ。
全員　…。
広志　一個一個ちょっとずつ違うんだ、奥の院の墓石って。なんか、その人の生きた証？ただの石なのに、その人が生きたことを象徴しているというか、何しろ一つ一つ雰囲気が違う。そこからその人の魂が見えるっていうか…。
颯太　あぁ、石って何千年も残るしな。
広志　そうそう、そうなんだよ！やっぱ颯太はわかってるなぁ。
百合　広志が芸術を語るとは…。世界ってどう転ぶかわかんないね。
千尋　そうだね、でもいいと思うよ。今言ったことをお父さんに話してみなよ。きっとわかってくれると思うな。
颯太　俺もそう思う。
広志　…そっか。そうしてみる。なんかいけそうな気がする！
千尋　ハーバードに？
広志　おう！
みんな　…。

百合　それは諦めな。
広志　…はい。

5場

自宅。千尋、帰ってくる。遺影の前に座って拝む。仏壇のチン。照明点く。

千尋　ただいま、お父さん。

机の上の置き手紙を読む。

千尋　今日の置手紙か。なになに?えー、「千尋へ、今日も遅くなるので、冷蔵庫のお惣菜たべてください。」…か。タイムセールのお惣菜だなあ。どれどれ。うわっ、きんぴらゴボウにマカロニサラダにアジの天ぷらか。おいしそう!「夏休み明けにテストがあるみたいですね。母より。
あー!お腹すいたー!

千尋、置き手紙を大きな缶に入れる。

千尋　重くなったなあ!メールと違うとこね。

缶を仏壇の下にしまい、立ち上がるや、エリクソンと長官の挿入歌を鼻歌で歌いながら、台所に向かい。冷蔵庫から惣菜を出してくる。

暗転

仏壇のチン

母　ただいま。あなた。
母　今日の置手紙ね。えっと、「お母さんへ。アニメの声真似やりました。今日は、『エリクソンと長官』の長官役。意外に難しかったです…。」…か。アニメばっかり。あの子、少しは進路のこと考えているのかしら?「それと、駅の近くで売ってるクレープおいしかった。フローズンヨーグルトクレープが最高。」ああ、また無駄遣いして。たまには美味しいもの食べるのもいいけど、あんまり買い食いしないようにね。「あと、たまたま向陽銀行の前を通りかかったら向かいのスーパー大黒屋で、野菜のたたき売りをしていました。キャベツとレタスとセロリとゴーヤを買っておきました。千尋より」あの子セロリやゴーヤみたいな苦い野菜嫌いじゃなかったっけ。また、お小遣いあげなきゃね。

母、鼻歌を歌いながら冷蔵庫からご飯を取り出す。

母　いただきます。あら、半額にしては美味しいじゃない。やっぱり寿屋のお総菜は美味しいわ。ここはこのお総菜でもってるのよね。あしたは大黒屋、お総菜の半額セールをやるらしいけど美味しいのかしら。倹約倹約。
母　はぁ、でも今日はおもしろかったわねぇ。あのおばあちゃん大丈夫かしら。あ、千尋にも教えてあげよう。

母去り、千尋登場

千尋　「千尋へ　昨日仕事中におばあちゃんが来ました。写真のカラーコピーが出来ないって言ってきたんだけど、持ってきた写真が白黒写真でした。」何それ、おばあちゃんおっちゃめー。「それから、夜は暑いからといってお腹を出して寝ないように。」お腹を出して寝たりしてません。子供じゃないんだから。腹は下すけど。「腹巻を買っておきました。千尋よくお腹こわしてるでしょ。」…知ってたんだ。「晩御飯は冷蔵庫に入っています。母より。
追伸　日赤病院で看護師の募集要項もらってきてあったのを忘れていました。置いておきます。」
…『私には憲法で保障された自由というものがあるのだよ。』『残念でした。公共の福祉は個人の人権を制限できます。というか今私がします。』『ふっ。私もまだまだ修行が足りんな。』…にしても、看護師か…。

看護学校のパンフレットを手に取る。

千尋　ナース服とか着るのかな?コスプレみたーい!」

いすに座る。母に携帯電話をかける。が、途中で切る。

千尋、冷蔵庫を開ける。

千尋　♪今日のごはんはー…。あー今日、ポテトサラダじゃんーさすが、お母さんー?なんで…!…なんで…!ポテトサラダとコールスローなんだよぉ! マジないわー、ポテトサラダとコールスロー。ポテトサラダとコールスローなんて合うはずない。サラダの中で神レベルのポテトサラダと、サラダの中で雑魚レベルのコールスローだよー?お母さん、わかってないなぁ。コールスローなんてただキャベツを切っただけじゃん
。

愚痴をいいながら、コールスローを食べる。

千尋　いただきます。…!?な、なんてことだ…! コ、コ、コールスローが…うまいだとぉぉぉぉぉー?なんてことなんだ…。コールスローを、いやコールスロー様を見くびってしまっていた。こ、こんなにも素晴らしいサラダを私は見逃していたというのか!?しゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく…。うめぇー。

千尋　あ、手紙。

手紙を黙読。その後、缶を取り出して入れる。

千尋　看護師…ねえ。私には似合わないよ。ほら、ナース服似合わなさそうだし。たぶん子供は泣かしちゃうし、いろいろ雑だし。私だって、一応夢があるんだし…だけど。だけど、やっぱり無理…かな、私なんか……でも…。

千尋、お父さんの遺影の前に座る

千尋　…どうしよう。どうしたら伝わるのかな…。ねえ、お父さん…。やっぱり、一番大事なことは手紙より電話の方がいいかな。

千尋去り、母登場
父の遺影に向かって座る。
仏壇のチン

母　ただいま。あなた。

母、鼻歌を歌いながら台所にいく

母　…今日は…あら?コールスロー嫌いって言ってたのに食べてるじゃない。ゆず醤油ドレッシングがあうのねきっと。あ、でも、ポテトサラダ残ってる…。大好物なんじゃなかったっけ?全部食べろって言ってるのに…。もったいないじゃない。あれ?

母、置きっぱなしにされている看護学校のパンフレットを見つける

母　パンフレット…。あの子、ちゃんと見たのかしら。

母　「お母さんへ　パンフレットありがとう。看護師も考えてみます。」ちゃんと見てたのね。「でも私、ナース服似合わない気がする。コスプレみたいになるとおもう。」それはあれよ、なれたらそれらしく見えるのよ。そう、学校の制服だって同じよ。「看護師さんっていつもニコニコ優しいイメージがあるけど、私には無理な気がする。」看護師無理って、そんなことないと思うけどなあ。

「もうすぐ三者面談があるんだけど、お母さん忙しくて行けないとおもうので、先生に二者面談にしてもらうように頼みました。ちひろより。」うん。ごめんね。お母さんも行きたいんだけど。…ごめんね。

追伸　「エリクソンと長官」明後日までに返却しなければなりません。返却する前にお母さんも一度観て下さい。とてもおもしろいから。テレビで、蛍光灯にアルミホイル張ったら節約になるって言ってました。」アルミホイルどういう風に貼るのよ?もっと詳しく書いてくれなきゃ。……それにしても千尋、看護師無理無理ってまさかね……。

母　あの子ももう高3だし。進路決めないと。看護師っていいわよね。やっぱり手に職つけた方が…ね。あーあ。私も学生時代、もっと勉強して看護師になればよかったな。勉強…ねえ。千尋はアニメばっかり観ているんだけど、

遺影の前に座る

母　どうしたらいいかな、あなた…。

暗澹

母去り、千尋登場　千尋の携帯に電話がかかってくる。

千尋　はい。もしもし。
母　千尋?
千尋　何?
母　リビングの蛍光灯切れちゃったの。買ってきて。お金居間の戸棚の抽出しに1000円くらいあるから。
千尋　え?
母　うっかり電気屋に寄るの忘れちゃったの。

千尋、電気のスイッチを入れる。が、つかない。

千尋　あ、ほんとだ。
母　自転車でちょっと遠いけどさ、ベーズデンキ安いから。
千尋　えー。
母　お願い。
千尋　はいはい。わかったよ。
母　あ、それから、千尋、エリクソンと長官。
千尋　あれ、面白いでしょ。お母さんも見た?
母　見たわよ。面白かった。私は長官の台詞が好き。『この世界は美しい。』かっこいいわね。それじゃあ切るね…

千尋　あ、ま、待って。
母　なに?
千尋　あのさ、仏壇に供えているスイカ冷やしておいてもいい?
母　いいわよ。食べ過ぎてお腹壊さないようにね。
千尋　やったあスイカ大好き……あ、『長官、でも私はスイカは許せないんですよ。』
母　え?ああ。『なぜだ?理由を述べろ。三十字以内でレポート用紙に書いて私に提出しろ。期限は明日の朝だ。』
千尋　『今書きます。』
母　『まだ二十四時間ぐらい猶予があるぞ?』
千尋　『それでも今書きます。』
母　『なぜだ、理由を述べろ。』
千尋　『明日の朝になったら長官は多分覚えてないからです。』
母　『なるほどな。』
千尋　『はい…っと、できました。』
母　『おお、早いな。さすがはエリクソン君だ。褒美だ、これをやろう。』
千尋　『なんですか?これ。』
母　『キミが三週間前に持ってきた魚肉ソーセージのゴミだ。』
千尋　『なくなったと思ったら長官が食べてたんですね。』
母　『昨日部屋を掃除していたら出てきた。』
千尋　『ゴミはごみ箱ですよ。早く私のレポート、もとい作文読んでくださいよ。』
母　『はぁ、仕方ないな。なに?「スイカは味は良いが、それでも許せない点がある。一つ目は、というか一つしかないが『種』のことだ。わざわざあんなに散らさなくてもいいのに…。長官、なんとかして下さい。』
千尋　『どうですか、長官。』
母　『どうもなにも…。君は三十字以内の意味を理解しているのか?』
千尋　『当たり前です。で、どうでした?』
母　『どう、というより…君はあの一瞬でこれだけ文字を書いたのか?しかも私と話をしながら?』
千尋　『はい。』
母　『ご褒美の魚肉ソーセージだ。受け取りたまえ。』

千尋　『ありがとうございます。』
母　『どうしたエリクソン君。浮かない顔をしているがどうかしたのかね。』
千尋　『いえ長官、ただいつも魚肉ソーセージなので、今度のボーナスは魚肉ハンバーグと魚肉ソーセージを半々にしていただければうれしいんですが。』
母　『よしわかった。』
千尋　『では失礼します。長官』
母　『エリクソン君、蛍光灯、くれぐれも忘れないでくれたまえ。』

暗転
仏壇のチンで照明C－

千尋　ただいま。ただいま、お父さん。
千尋　「千尋へ　冷蔵庫にオムライスがあります。ケチャップ無いからソースや醤油で適当に食べてください。二者面談どうでしたか。また聞かせてください。」

いすに座る。母に携帯電話をかける。が、途中で切る。

千尋　んあー！無理！やっぱり無理！…はあ。

台所にご飯をとりにいく。オムライスを冷蔵庫から取り出し、いすに座って食べ始める。テレビをつける。すると携帯に電話がかかってくる。

千尋　（携帯画面を見て）お母さんだ…。はい。
母　千尋？
千尋　うん。
母　さっき電話した？
千尋　…うん。
母　何かあったの？今家？
千尋　うん家。…あのさ、今日…。
母　ご飯食べた？

千尋　今食べてるところ。食べ終わったら「エリクソンと長官」の続編見ようと思ってる。
母　あーいいわねえ。
千尋　電話しててもいいの？
母　ああ、大丈夫よ。今お客さんいないし、バイトさん2人いるから。
千尋　そうなんだ。
母　何か用事？
千尋　あ、いや、今日二者面談があったんだけど、
母　うん。
千尋　えっと…。
母　で、何だって？
千尋　いや、まあその、簡単に言うと、成績的には無理かなぁって。
母　そうなの。
千尋　うん。だからもうこの時期だし看護師を目指すのは諦めたほうがいいって…いうか…。
母　…看護師、になれないのね。
千尋　…。
母　…この 世界は厳しい…。
千尋　…え？
母　「この世界は厳しいぃ！」
千尋　え？え、美しいじゃ…。
母　「あぁ、なんて厳しい世の中なんだ。私はもっと現実を見据えていたらよかったのに！」
千尋　「…見据えていたら、長官はどうなっていたんですか？」
母　「看護師だ。」
千尋　「そうなんですか。」
母　「ああ。そして多くの人間を助けまくる！」
千尋　「なんか怖いです。」
母　「なにが怖いものか。お金を稼ぎまくるのだ！」
千尋　「それが目的なんですね。」
母　「い、いや今のは少し本音が出てしまっただけで…。」
千尋　「本音なんですね。」
母　「と、とにかく安定した職業、安定した生活を送れたら幸せだったのに…！」

千尋　「…じゃあ 今は幸せじゃないんですか?」
母　「え?…いや、そういうことではない。」
千尋　「じゃあどういうことですか?」
母　「やはり我々人間は「安定」ということを求めてしまうのだ。そしてその上で幸せを求める。つまり「安定」は必要最低限の条件なのだ!」
千尋　「安定…。」
母　「ああ。安定がなければ幸せにはなれない!だからエリクソン君、君はキャラクター的に安定しているが、職業的にも安定せねばならない!」
千尋　「…。」
母　「つまりエリクソン君。」
千尋　「はい。」
母　「君は国務次官を辞めて、看護師になりたまえ!」
千尋　「しかし長官。先ほども言いましたが、私、看護師には…。」
母　「なら公務員になりたまえ。」
千尋　「えぇ!?しかし…。」
母　「これは命令だ。」
千尋　「…。」
母　「分かったかね、エリクソン君。これはあくまでも君のことを想って言っているんだ。」
千尋　「それは分かっています。」
母　「それなら…。」
千尋　「でも…!」
母　「でも?」
千尋　「……。」
母　…千尋、あなたまさか声優になりたいんじゃ・・・。
千尋　え…う……。
母　そのまさかなの?
千尋　えぇ、まあ・・・
母　お母さん絶対反対だからね!そんな声優なんてなれるかどうかわからないものをめざすなんて、お母さん絶対認めません。
千尋　でもお母さん、夢を持てって。

母　叶いそうな夢に決まっているでしょう!
千尋　でもそれはやってみないと・・・。
母　千尋の気持ちはわかったわ。お母さんが何故反対するのか家でゆっくり話しましょう。なんとか休みとれるようにするから。

母、電話を切る。

千尋　あ、切られちゃった!

電話をかけ直そうとするが、止める。

音楽　溶暗

6場

溶明

千尋が帰ってくる。父の遺影に向かって座る。仏壇のチン

千尋　ただいま、お父さん。

立ち上がって手洗いを済ませたあと、置手紙を手に取る。

千尋　「千尋へ　ポテトサラダを作っておきました。夕方帰ります。だから夕食久しぶりに一緒に食べましょう。母より」…お母さんとタご飯食べるのいつ以来かなあ!でも嫌な予感が。

千尋、仏壇の下から缶を取り出し、大事そうに手紙を入れる。

千尋　重くなったなあ…。
母　ただいま。
千尋　お帰りなさい。

母　もっと早く帰りたかったんだけど引き継ぎに時間掛かっちゃって。千尋お腹すいたでしょう。

と言いながら、食事の準備を始める。

千尋　ううん。私もついさっき帰ったところ。（こっそり缶を隠す）
母　久しぶりねえ。一緒にご飯を食べるのって何ヶ月ぶりかしら♪
千尋　7ヶ月ぶりだよ。お正月以来初めて。
母　…あ、あらそんなに…。月日が経つのは早いわねえ。

母、ポテトサラダと二人分のお皿を机に置く。

母　さ、食べましょう。いただきます。
千尋　…いただきます。

二人食べ始める。

母　おいしいわね。やっぱり一人より二人で食べるほうがおいしいわ。
千尋　うん…。
母　…最近どうなの？学校。
千尋　うん。結構楽しくやってる。友人関係良好ってとこかな。
母　そう。お友達は進路どうするか決めてるの？
千尋　いろいろだけど。この前自分の夢を語り合ったの・・・・颯太はね。IT関係のベンチャー企業立ち上げたいんだって。凄いよね。広志は新しいタイプの石屋を始めるんだって張り切ってる。
母　一緒にアニメの掛け合いしている百合ちゃんはどうするの？
千尋　百合は、化粧品会社に就職するらしい。
母　あら？声優になりたいって言ってたんじゃないの？
千尋　うん。つい最近進路変更したんだよ。
母　何故なの？

千尋　よくわからないけど、気が変わったらしい。
母　目が覚めたのね。千尋も目を覚ましなさい。
千尋　私は目が覚めてるよ。
母　目が覚めてるって、現実を少しも見てないじゃない。
千尋　見てます。
母　声優なんて東大へ行くより遥かに難しいのよ。だってそうでしょ、東大って毎年３０００人も合格するのよ。声優として成功している人何人いるか知ってる？年に数人なのよ。お母さん調べたの。声優だけの収入で生活している人って、１００人もいないらしいわ。１００人っていうのはベテランまで含めてたったの１００人よ。
千尋　そんなことは百も承知だよ。私は１００人もいるのかって思ったよ。
母　ずいぶんな自信家ね。誰に似たのかしら。仮にあなたに才能があったとしても、東京で暮らしていくには学費も含めて月に２０万いるっていうじゃないの。そんなお金どこにあるっていうの？
千尋　バイトするつもり。
母　バイトって時給８００円で一日１０時間働いてやっと８０００円よ。休み無しに働いても月に２４万円。税金とかいろいろ引かれてやっと２０万。へとへとになって声優のレッスンできるの？デビューまでに5年から8年そんな生活が続くのよ。身体壊しちゃうわよ。うまくそこまでたどり着く人は０．０１％しかいないのよ。途中で大抵の人はやめちゃうらしいわね。
千尋　頑張る。
母　頑張るって、限度があるわよ。その頑張りを勉強に向けたら看護師になれるわよ。そしたら看護師も楽ではないけど、普通の幸せな生活ができるわ。
千尋　私は、普通の幸せな生活なんか欲しくない。好きなアニメの制作に携わって、アニメのキャラクターが私の声でしゃべる。主役の声にも、ロボットにもなれる。妖精にだって、人魚にだってなんにでもなれる。その喜びがお母さんにはわからないんだよ。
母　そんな夢は子供のときだけ見る夢。夢のまた夢。現実の生活がそんな夢を覚ましてくれるの。なぜ覚めないの？
千尋　確かに夢に違いないけど。でもその夢を叶えるためならどんなことにも耐えてみせるよ。
母　どれだけ頑張っても叶えられない夢。その夢にちょっとだけ近づくことができるのはお金持ちだけ。
千尋　そんなことない。今活躍している声優さん達だって私と同じ夢を見たんだよ。見続けているんだよ。そんな人たちって、周りから見たらある意味狂ってるって思われたと思う。でもそん

な人たちがいるからすばらしいアニメがたくさんできたんだと思うよ。
母　お母さんはあなたに貧乏で苦労させたくないのよ。もう貧乏はこりごり。あなた自身、身に沁みているでしょう。
千尋　私は貧乏になれちゃったから、いくらでも耐えられるよ。
母　貧乏にも限度ってものがあるでしょ。
千尋　だからバイトしてお金を貯めて、それから・・・。
母　千尋はお金がないことがどんなに辛いことかわかってないのよ。千尋が小学生の頃、給食費が払えなくて何回も待ってもらったこと知らないでしょ。
千尋　・・・知ってたよ。友達から聞いた。千尋んち給食費も払えないんだ、ってみんながらはやし立てられた。
母　えっ！恥ずかしくなかった？悔しくなかった？
千尋　お父さんがいないから仕方ないんだって思うことにしてた。
母　ごめんね。
千尋　ううん。でもお父さんが亡くなってからいろんなことがあったなあ！年長さんの時だったかなあ。保育所で小さなクリスマスケーキくれたの。おかあさんと食べようと思って抱きかかえて歩いて帰った。前から自転車が来てよけた弾みで転んじゃった。おかあさんとグシャってなったケーキ泣きながら食べたよね。覚えてる？小学校に入るとき、お母さんとこかで古いランドセルもらってきたでしょ。お母さんの悲しそうな顔を見て、嬉しそうにありがとうって言ってはしゃぐことしかできなかった。遠足の時、おやつはいつもうまい棒２本だけだったっけ。友達と交換できなかったなあ。ああ、そうそう、わたし運動会が大嫌いだった。
母　・・・。
千尋　お母さん仕事で一回も来られなかったでしょ。昼休み校庭の木の陰で一人でお弁当食べたよ。友達のお父さんは楽しそうにみんなで昼ごはん食べているところをビデオカメラで撮ってた。・・・・・修学旅行病気になって休むことになるのかなって覚悟してた。朝学校へ行ったら先生なんて言ったと思う？・・・風邪引かなくてよかったねって。京都の旅館での夕食、みんな普通に食べていたけど、私あんな豪華なおかず見たこと無かったし、初めて食べた。おいしかったなぁ！
母　ごめんね。ほんとにごめんね。でもね、千尋。もう千尋にそんな思いをさせたくないの。
千尋　きょうお母さんに話すことができて良かった。話してみて気がついたんだけど食べ物にまつわる話が多かったね。わたし、食い意地が張っているのかもしれないな。
母　そうね。修学旅行のお土産、八つ橋とてもおいしかったわ。

千尋　一番安かったなま八ツ橋買ったんだよね。あんこが入ったのが５３０円、なま八つ橋が３７０円だった。５００円しか持ってなかったからあんこ入りが買えなかったんだ。高が３０円されど３０円。
母　そうだったの。
千尋　うちにはサンタさんが来たことなかったし、誕生日も普段と変わりなかったけど、お母さんから手紙くれたから少しも寂しくなかった。ありがとう。
母　ほんとに苦労かけたわね。
千尋　ははは、でもなんていうかすっかり貧乏に慣れちゃった。貧乏の耐性ついちゃったみたい。貧乏から抜け出したら体調崩すんじゃないかな。

沈黙の間
母立ち上がり、千尋に背を向ける

母　「エリクソン君、君は文豪ゲーテのこんな言葉を知っているかな？『なぜいつも遠くへばかり行こうとするのか。見よ、よきものは身近にあるのを。ただ幸福のつかみ方を学べばよいのだ。幸福はいつも目の前にあるのだ。』」
千尋　「長官はずいぶん物知りですね。知りませんでした。私はコクトーの『青年は決して安全な株を買ってはならぬ。』という言葉を座右の銘にしています。目の前に見えているのは薄っぺらな幸せもどき。本当の幸せを命がけで手にしたいと考えています。」
母　「エリクソン君、君に何を言っても無駄なようだな。」
千尋　「そんなことはありません。ただ私が夢に向かって進むことは誰にも止めることはできません。失礼ですが長官には夢はないのですか？」
母　「私の夢か、私の夢は君が経済的に安定した生活を送り、健康に暮らすことだ。」
千尋　「私はきょう一緒に食事ができてとても幸せです。一緒に食事をするというような普通のことに喜びが感じられることが嬉しいんです。私はこれまで貧乏の深い意味を誰よりも知ることができたと思っています。ただ、お金持ちの気持ちの方はさっぱりわかりませんが。」
母　「そうだな、お金持ちの気持ちは私にもわかる日がこないようだ。」
千尋　「長官、貧乏っていいものですよ。失うものが何もないんですから。」
母　「君はいつからその夢を実行しようとしていたのかね？」
千尋　「そうですね。中１の頃からですね。」

母　「やっぱりそうか。看護師をすすめてもいつも聞き流していたからな。」
千尋　ごめんなさい。
母　あなたの人生なんだからお母さんが決めることはできないわね。でも一つだけ約束して、元気で生きていて。
千尋　うん、約束する。ごちそうさま。

千尋食器を片付け去る。母、ちゃぶ台を持ち上げて片付けようとする。

母　なんなのこれ

置き手紙の缶を見つけ、ちゃぶ台を置き直し、中を見る。

母　え…（一枚取って）「千尋へ　昨日仕事中におばあちゃんが来ました。写真のカラーコピーが出来ないって言ってきたんだけど、持ってきた写真が白黒でした。晩御飯は冷蔵庫に入っています。二者面談どうでしたか?-また聞かせてください。母より」「千尋へ、中学入学おめでとう。今月から正社員として雇ってもらえることになりました。今までより少し生活が楽になりそうです。」全部、残していたのね。（ふたに貼ってある封筒を見つける）何これ。見たことあるような…（千尋が返ってこないことを確認して封筒から手紙を取り出す）。

ちひろへ
　このまえたのまれたてがみのへんじがきました。
　おとうさんはげんきにしていて、
　てんごくのくらしも　きにいってるみたいです。
　だから　こっちへもどってくることはできませんが
　おとうさんは　ちひろがだいすきだから
　いつでもてんごくからみまもってくれているとおもいます。
　おかあさんは　おとうさんがげんきにしていることがわかったので、もうなきません。おかあさんは　しごとがいっぱいになって、ちひろとはなせるじかんがみじかくなるとおもいます。だから、これからはおてがみをかくことにします。ちひろもおへんじかいてください。

幕